
伝説

金時

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伝説

【Nコード】

N6845F

【作者名】

金時

【あらすじ】

この街の人工は一週間前は100万人今は10人やここにいる3人だけかもしれない。

拠点地 昼

金時「この街はどうなってるんだ」

拓海「化け物が暗いとこだとでてくるからな」

総悟「夜になると活動しだすしな」

そういいながら3人は誰ともすれ違うことなく道を歩いている。

どうするかは3人も考えていない。

総悟「大きすぎる家だと戸締り大変だしな」

金時「小さい家だと食料をあまりためれない」

歩いているとちょうどいい大きさの家を見つけた。

拓海「とりあえずここを拠点地とするか」

それには他2人も賛成だった。

総悟「まず状況を確認しよう朝起きたら誰もいなかったそして外を
でも誰もいなかったそのままうるうるしていたら2人とあったそ
れでいいな」

金時「そういえば二人とも暗くなったら襲われるのをなぜしってい
るんだ？」

総悟「夜目が覚めたら窓をたたき音がしたんだそこで見てみたらな
んと化け物がいたんだ」

拓海「影の所を歩いていたら襲われた」

金時「まあ大きい建物と夜には気をつけるっていうことだな」

総悟「これからどうする」

金時「まず食料集めだ俺と総悟で近くの店でもいってくる」

そう言っただけにある車を走らせた・・・

金時「そういえばお前免許もってんの？」

総悟「免許なんて誰もいないからいらない」

金時「持ってないのかよ・・・」

二人はデパートについた

バリー

大きな音が響いた

金時「自動ドア車で突破しなくても」

しかし総悟は無視した。

総悟は食品売り場、金時は家具などのところに行った。

総悟「おい金時こっちにこい」

金時は食品売り場の方に走っていった

金時「なんだこれは」

そこには総悟には見覚えのある本があった

総悟「これはたぶんあの化け物の凶鑑だろう」

金時は何のことかまったくわからなかった。

金時「まあこのデパートに秘密がありそうだな」

総悟「ここにはまたくるだろう」

爆竹祭り 夕方

総悟「早く帰らないといけないな」

金時「そうだな食料のほかにバリケードになるものも手に入れた」

総悟「それに生き残りを探すための爆竹やロケット花火もとつてきた」

金時「帰りは爆竹に火をつけて投げて生き残りをみつける」

総悟「帰りは早く帰るぞ」

金時「安全運転してくれ」

金時が爆竹に火をつけたとき突然車を止めた。

金時「何だよ突然止まって」

総悟「信号が赤だから」

金時「車は走つてないんだ」

総悟「安全運転つて言っただろ」

金時「爆竹いまで落とすした」

総悟「え・・・」

少しして総悟は気がついた

総悟「よく見てみる火はついていない」

金時「残念だけど火がついたのはこっち」

金時はイスの下を指さした

金時「わが友よさようなら」

総悟「待ちやがれ」

総悟「やばかった」

金時「総悟お前なら生きてると思っっていたぞ」

総悟「それよりも車を見ろよ」

さつきまで乗っていた車が炎上している。さらに板なども燃えている

総悟「すごい勢いで燃えてるな」

金時「そりゃもうほとんどの爆竹やロケット花火に引火したんだから」

総悟「明日もデパート行かないといけない」

金時「だいたいわかるけど教えてくれ」

総悟「食料やバリケードも燃えているから」

金時「火って怖いな」

どうするか二人は相談した

総悟「いいことおもいついた金時その爆竹を貸せ」

金時「爆竹は消費するから「くれ」だろ」

総悟「まあそうかな」

と言って爆竹をとっていった。

総悟は影の所に行った。

金時「化け物に襲われるぞ」

総悟「みとけて」

そういつた瞬間化け物が現れた。

総悟は爆竹に火をつけ化け物に投げた

しかし効果はなかった。

総悟「あれ、目くらましくらいにはなると思ったのに」

金時「早く戻って来い」

総悟は走って金時の方へ行った。

金時「ここからは歩いて帰るぞ」

二人は拠点地へ歩いて帰った

爆竹祭り 夕方（後書き）

いまさらだが人物紹介

金時きんときこの物語の主人公につっこみポケモする

拓海たくみつっこみポケはあまりしない

総悟そうごポケつっこみはあまりしない

つまり

ポケ 総悟

つっこみ 拓海

化け物 夜

金時達が帰ったのは夕暮れだった

玄関にはすごい数の銃器とその弾があった。

拓海「食料は？」

総悟「ない」

拓海「なんでだよ」

総悟「燃えた」

拓海は仕方なく冷蔵庫に入っているものを取り出した。

総悟「冷蔵庫にあるのかよ」

拓海「缶詰ばかりでろくなものがないんだしかも飲み物がない」

総悟「なら金時コンビニでもいいから飲み物とってこい」

拓海「いちよう銃を持って行け」

総悟「暗くなってから懐中電灯もな」

金時は仕方なく家を出て行った。

ビルの横を通ったとき

バリーン

と大きな音がした。

金時は音がしたほうへ行ってみるとなんと化け物がいた

しかしその化け物は足が速く金時は映画でみたゾンビみたいな奴だろうと思っていたので手間取った

金時は手に持っていた銃の引き金を引いた。

化け物は奇声を発しながら倒れた

金時はマシンガンでよかったと思った

金時は射的が得意だけどそれは玩具おもちゃの銃、実際の銃は金時でも辛かった

金時はコンビニについた飲み物を取りに行こうとしたがレジにある紙に気になった。

紙は一部破れていて読める範囲では「は光に弱いなので建物など暗

い場所を好む」と書かれていた。

次に飲み物をとりに行ったしかし飲み物の半分近くは無かった。

金時は補充するのを忘れていたのかそれとも生存者がいるのかと思
い帰りは違うルートを通った。

しかしそれが裏目にでて化け物二匹と遭遇してしまった。

一匹はなれてすぐ倒せたが弾がなくなりもう一匹が倒せなかった。

金時は逃げたがこのままだと追いつかれてしまう。

生存者 夜式

金時は紙に書いてあったことを思い出した。

結局何もしなくても追いつかれるのだから懐中電灯の光を化け物にあててみた。

すると化け物はひるんだ

その間に隠れてやり過ごした。

そのあとは化け物にもしばらく遭遇しなかった

しかし家の近くに行くと銃声が聞こえる。

何かと思つて走つて帰るとなんと家の周りを化け物が囲んでいた。

金時は懐中電灯の光をあてて家の中に入った。

家には化け物はいなかった。

金時「どうなっているんだ」

総悟「化け物が急に集まりだしてここを襲ってきた」

金時はライフルを手に取り化けものに向かって撃った。

拓海「こっちにきてくれー」

二階から叫ぶ声が聞こえた。

金時達が二階へ上がるとなんと金時達と同じくらいの年の人が化け物に襲われいた。

総悟はライフルを構え撃とうとした。

拓海「襲われている人にあたったらどうするんだ」

拓海はとめようとした。

総悟「大丈夫だ昔スナイパーと言われたらいいな」

金時・総悟「言われてないのかよ」

総悟「願望のほうがうまくいくんだよ」

総悟は引き金を引いた。

しかし見事に外れた。

総悟「もう一発」

また撃つた今度はあたったしかし、すでに化け物にやられてて重傷

だった

そのうち朝日が見えた

化け物はいなくなつたので金時がその人に声をかけた。

しかし返事はなかつた。

あきらめて家に帰ろうとしていると、なんとその人が起き上がった。

しかし人間らしくなく金時に襲いかかった。

しかし総悟が撃ち金時は助かった。

生存者 夜式（後書き）

夜が明けたのに化け物が居るといふ矛盾がでてしまいました

新たな敵 朝2日目(前書き)

しゃべるところは一行あけたので見やすいと思います

新たな敵 朝2日目

二日目

今までで分かったことは

化け物は光に弱い

噛まれると化け物になってしまう

この二つのことが分かった

今日も探索をする

しかし初日と違うことは一人で行くことだ

今日は総悟が行くようになった

しかし車がないので徒歩で行くことになった

今は朝、なので武器はなしで行った

しばらく歩いていると紙切れがあった

気になったので見てみると

「名前：ウイルス B

特徴：ウイルスAを改良したもの

「ウイルスAの感染者と同じようだが光にも強くなった」

と書かれていた

しかし総悟は読むのに夢中だったため感染者に囲まれてしまった

総悟が焦っている

「伏せろ」

という声が聞こえた

とりあえず総悟はしゃがんだ

すると銃声が聞こえ感染者達は次々と倒れた

総悟には何かなんだか分からなかった

すると男が近づき

ルイス「大丈夫か俺の名前はルイス 自衛隊の隊長だ」

総悟「それよりさお前どんな訓練してんだよ！遠距離の時はマシンガンだと関係ない人まで撃つてしまっただろ！」

ルイス「すまないマシンガンしかなかったんだあと俺が助けなければ君は死んでいただろう」

総悟「そうだな 感染者は夜にしか出てこないんだろうあとさっき拾った紙なんだよ」

総悟は拾った紙を見せた

ルイス「研究所の図鑑の一部か」

総悟「研究所？そんなもの近くにないぞ」

ルイス「気にするな」

総悟「気にする」

何かが迫ってくる音がする

ルイス・総悟「なんだ」

なんと総悟の後ろから何故か車が

ルイスの後ろからは感染者が走ってくる

ルイス・総悟「後ろ」

しかし同時に言ったのでお互いよく聞こえなかった

総悟・ルイス「なんて言った？」

ルイス・総悟「志村後ろ後ろ〜！！」

ルイス・総悟「へ？」

二人が後ろを向くとまず総悟が車を避けた

総悟には運転手がみえた

ルイスは感染者を倒した直後

車に轢かれた

総悟「まだ聞きたいことあったのに」

そういつてルイスが持っていたマシンガンとマガジンをもらっていった

少しあるたところで

ルイスが立ち上がった

走ってきたので感染者と間違え

総悟「まさかルイス感染者になるとは」

ルイス「待てちがう・・・」

総悟「また新しいタイプの感染者か」

そういつたとたん総悟は後ろから迫ってきた新たな化け物に捕まり
押さえられたその時

マシンガンを落としてしまった

そのマシンガンをルイスはとり化け物に向かって撃った
化け物は絶命した

総悟「またお前に殺されるところだった」

ルイス「俺が撃たなきゃお前ハンターに殺されていただろう」

総悟「あいつハンターていう名前なんだ」

ルイス「ハンターに捕まるとハンターを撃つどころか動くことも難しい、名前の由来も分かるだろう」

総悟「狩人だろ」

ルイス「正解だ、さらに他にも強い敵はたくさん居る」

総悟「ならあいつらが危ない」

ルイス「他にも生存者はいるのか」

総悟「二人居る」

ルイス「なら行こう」

総悟「何お前が仕切ってたんだよ」

ルイス「何か言ったか」

総悟「何も」

新たな敵 朝2日目（後書き）

問題

ルイスと総悟が一緒にしゃべっているのにおかしい部分があります
そこがどこなのか当ててください

正解

は次回へ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6845f/>

伝説

2010年10月9日05時30分発行